

# 医療の現場から

## かぜとかぜ薬

薬剤課 主任 泰地 淳夫



### ● 2月の救急医療機関 ●

#### 平日

電話で時間外診療の協力医療機関をお知らせします。  
時間外夜間急病テレホンセンター  
TEL22-2299

#### 休日

##### 【内科・小児科】

診療時間 8時30分～翌日8時30分  
市立病院  
TEL22-4311 (大町2-2)

##### 【外科】

診療時間 8時30分～翌日8時30分  
7日(日) 滝川脳神経外科  
11日(木) 市立病院  
14日(日) 市立病院  
21日(日) 滝川脳神経外科  
28日(日) 市立病院  
※市立病院  
TEL22-4311 (大町2-2)  
※滝川脳神経外科  
TEL22-0250 (西町1-2)

##### 【歯科】

診療時間 9時～12時  
7日(日) 新十津川パンダ歯科  
TEL76-3202 (新十津川町中央309)  
11日(木) さとう歯科医院  
TEL53-3710 (砂川市空知太東1-3)  
14日(日) アヒコ歯科医院  
TEL24-8711 (一の坂町東3-3)  
21日(日) 伊藤歯科医院  
TEL52-2222 (砂川市西1南7)  
28日(日) スマイル歯科  
TEL74-5028 (本町2-4)

かぜが流行していますが、皆さんは大丈夫でしょうか。かぜを引くと、発熱、頭痛、体のだるさ、鼻水、鼻づまり、のどの痛み、せき、たんがらみといったさまざまな症状が現れます。これらの症状は、鼻やのどにウイルスなどの微生物が感染することで起こりますが、原因である微生物を特定することは困難である場合がほとんどです。そのため、かぜの原因である微生物を直接退治してかぜを治すことができる薬はないというのが現状です。かぜを治すには安静にすること、水分や栄養の補給が大切といわれています。

一般的にかぜ薬と呼ばれているものは、せきや鼻水などのかぜの症状を和らげてくれる薬です。かぜ薬の種類は多彩で、いろいろなかぜの症状に合わせて使い分けることができません。では、かぜ薬はどういうときに飲めば良いのでしょうか。それはかぜの症状がつかいときです。かぜの症状が出ていても、日常生活に支障がなければかぜ薬を飲む必要はないでしょう。かぜ薬には医師の処方箋が必要なものだけでなく、ドラッグストアなどで皆さん自身が買って買うことができるものもあります。かぜ薬を選ぶときは、調剤薬局やドラッグストアの薬剤師に相談すると良いでしょう。

しかし一方で、かぜの症状が現れてもかぜ薬で対処せず、すぐに医師の診察を受けた方が良いでしょう。それは、ある種の病気の合併症や薬の副作用の現れ始めの症状(初期症状)が、かぜの症状とよく似ている場合です。かぜだと思いついていたものでもし合併症や副作用だった場合、自宅で安静にしていたり、かぜ薬を飲んで数日様子をみたりすることによって、どんどん状態が悪くなってしまう恐れがあります。このような可能性がある方には医師や薬剤師から、かぜの症状が現れたらすぐに受診するよう話があると思います。また、薬の説明書にもかぜの症状が現れたときに速やかな受診が必要であることが書いてありますので、薬の説明書をお持ちの方は一度見直してみることをお勧めします。

かぜは普段から予防することが大切です。規則正しい生活を心がけ、外出時にはマスクをしたり、外出後には手洗い、うがいを必ず行うようにしましょう。

